

東日本旅客鉄道労働組合

東京都渋谷区代々木2丁目2番6号

JR新宿ビル13F 〒151-8512

Tel. 03-3375-5740 (代)

発行責任者 古川 建三

JR東労組

本部OB会

ニュース

No.260 2018年11月発行

2018年JR東労組OB会幹事会で

今後のOB会活動を徹底議論!

午前の「我らの声」編集委員会で、休刊を決定



本部大会議室で開催された2018年本部OB会幹事会

朝晩の冷え込みも感じられる様になってきた10月23日13時より、JR東労組本部大会議室で「2018年JR東労組OB会幹事会」が開催されました。この会議には、本部OB会役員と幹事の他に、中央本部より徳野副委員長と田崎OB担当中執も参加しました。

またこの幹事会に先立ち、午前10時から毎年発行している「我らの声」の編集委員会が開かれ、その会議の場で今後の「我らの声」の休刊が決定されました。

初の単独幹事会

この幹事会は、昨年までは各地本OB担当者との「合同会議」として開催されて来ましたが、今回からOB会単独の幹事会として開催される事になりました。

会議は古川会長の進行で始まり、

「組合員の大量脱退後も組合内部の混乱が続いており、その影響を本部OB会も受けているが、今後もがんばって行く」と挨拶をしました。

また来賓の徳野本部副委員長は、「会社は組合脱退者を社友会へ組織化しているようだが、本部は組合員からの信頼を取り戻して組織拡大をしていく」と決意を明らかにした上で、「全地本に専従者を指定しなかった理由」や「真実の声」等に対する本部の考え方を明らかにしました。

出された特徴的な意見

- ① 「憂う会」を巡って本部OB会と話し合いを行ってきたが、昨日「憂う会」の4名から「JR東労組OB会から退会する」という電話が入った
- ② 高齢化するOB会は、今後居住地域を単位にした組織にしてはどうかと研究を始めた
- ③ ブロック別3地本OB会の交流会がなくなっても、親睦を深めるために今後も独特にやっ行ってきたい

- ④ 単身・高齢の会員が増えているので、「見回り」など助け合う運動を方針化してはどうか
- ⑤ 本部の18春闘の総括で「大敗北」にこだわるのは何故か、もっと組合員が自信を持てるものにしてはどうか
- ⑥ 過去の組織問題を乗り越えた様に、12地本が団結するため、本部はもっと手を打って欲しい

今後の活動に向けて

などの意見が出され、それぞれの担当者から回答がありました。また横浜地本OB会の中で発生した「会長不信任問題」は、もっと地本OB会の中で話し合って欲しいという意見で集約されました。

幹事会は、来春の「定期総会」に向けた活動方針の概要を決めた会議でした。その内容は組合員の大量脱退という組織現情の中で、これから向かえる「OB会員の減少と高齢化」に対応して、地域での活動を中心にして展開して行くと言うものです。

またJR東労組が直面している組織減少と云う危機を打開するために、組合を脱退したエルダーに対し「組合復帰」と「OB会再加入」を呼びかける事も決定しました。

また午前中に開催された「我らの声」編集委員会では、OB会の今後の活動を考えた時に、一旦ここで「休刊」とすることになりました。

「JR東労組」が元の組織に戻る様OB会も精一杯応援しましょう。

最後を惜しむ声の中で フロック別交流会が盛大に開催

東北

10月10・11日の両日、東北フロック3地本OB会の交流会が盛岡地本OB会の準備で開催され、30名の参加者が「渡り温泉」に集まり交流を深めました。

JRバス東北の貸し切りバスで盛岡地本を出発、車内では、「おらだず、日本国民はよ、曲がったことはやんかべ...」喧嘩なんかかましてよ、大砲だの兵隊っこだのって人様の命とる喧嘩など、とんでもね話すだ。やめろ、やめろ...と東北弁で「憲法9条」が紹介され、一路「北上平和記念展」に向かいました。

この展示館には、戦争に出征した農民兵士の「教え子から先生に宛てた7000通の軍事郵便」と、戦争体験に関する資料が展示されていました。

その後宿泊ホテルで徳野副委員長より「JR東労組の現状と今後の課題」の問題提起をいただき、意見交換をしました。翌日は、「宮沢賢治記念館」に向かい見学途中で小雨にあいきましたが、賢治の深遠な思想や世界観の一端を感じ取ることができました。

帰路のバスの中では、今回で3地本OB会の交流会が無くなる寂しさの声が上がりました。

東関東

10月11日、東関東フロック3地本OB会の交流会が実施されました。今回の主管は千葉地本OB会で、「両国ぶらり旅」と銘打ち総武線の両国駅周辺での歴史散策を行いました。

11時に両国駅の国技館側の改札口に集まった参加者は総勢43名で、当日の



参加者に関東大震災を語る藤田教授

説明をしていただく立正大学の藤田名誉教授を先頭に、旧安田邸の庭園からスタートしました。都会のオアシスにもなっている庭園を過ぎ、東京都慰霊堂の傍らにある朝鮮人慰霊碑の前で、藤田教授から関東大震災の状況と、それに纏わるデッチ上げによる朝鮮人虐殺事件の話を中心に解説がありました。

1923年9月1日の大地震発生から軍部によるデッチ上げで朝鮮人虐殺事件あった事、その後の世の中の流れなどが詳しく語られました。

その後一行は江戸東京博物館に移動し、江戸から東京への近現代史をそれぞれの展示物を通して個々に学んできたところでした。

一通りの見学を終え、両国駅まで戻り駅の近くにある居酒屋で、当日の楽しい交流会が実施されました。

交流会の中で、この3地本交流が今年限りとなり、残念がる声もありました。

仙台

10月15日米沢地区OB会は、米沢駅前の「佐氏原会館」で久々の「芋煮会」を開催して、隣の福島支部OB会との交流を深めました。

この交流芋煮会には、福島支部OB会から10名の仲間がかけつけ、地元米沢からも11名が参加しました。

まずこの日参加者は、芋煮会を始める前に駅近くにある昭和7年建立の「鉄道忠魂碑」に立寄り、地元参加者から明治32年奥羽本線の福島〜米沢間のスイッチバック完成までの難工事で、亡くなった48名の殉職者を祀ってある慰霊碑の説明を受けました。

その後お楽しみ東北地方名物の芋煮会の会場に向かい、米沢独特の「牛肉入り醤油味の芋煮」と福島名産の日本酒を酌み交わし、会員が持ち寄り寄った松茸御飯や丸茄子漬けを食べながら、交流会は賑やかに盛り上りました。



最後に全員で記念写真を撮り「来年は福島でやるぞ」と約束して散会しました。

千葉

9月25日、今にも降り出しそうな空模様の中、京成柴又駅前の寅さんとさくららの像がある広場に続々と集まってきたのは、千葉県退職者連合の68名でした。これに千葉地本OB会の秋レクが合流して開催されました。

千葉地本OB会からの参加者は14名で、御夫婦で参加された会員もいらっしました。一行は映画「ブーテンの寅さん」の舞台

元気なOB、各地で様々な催し物

にもなった柴又帝釈天の題経寺へ向かいました。帝釈天に着いて境内を散策したり、本堂の周囲に飾られたお坊さんの修行をなぞった彫刻などを見物しました。その後交流の時間までそれぞれが近辺を散策し、あるグループは「寅さん記念館」に行き、映画のセットなど雰囲気味わっていました。

午後からの交流会は、参道の途中にある小料理屋で行われ、単産ごとに交流が深められました。またその場では、緊急西日本豪雨救援カンパが実施されました。

高崎

群馬県上野村は、2つの「大きな場所」として全国から訪れる人が絶えません。一つは、1985年8月12日に日航123便が墜落した現場の「御巣鷹の尾根」です。

もう一つは、御巣鷹山の地下にある世界最大級の揚水式の「東京電力神流川発電所」です。

高崎地本OB会は、10月10日からの2日間の日程で長野地本OB会との仲間と共に、26名の参加者でこの現地の研修を行いました。

一日目は、午前10時に高崎駅前からバスで上野村に向かい、地中で運転している発電所を見学しました。

その後、日航機事故の追悼場所「慰霊の園」で、当時の事故を振り返りました。

二日目は、御巣鷹山慰霊登山です。多くの場合、事故が起きてから「想定外」という言葉を聞きます。慰霊登山で思う事は、事故は起きるものではなく起こしてしまうのだという事です。高崎地本OB会は、今後も多くの人が参加出来る研修会を続けて行きたいと思っています。

JRバス東北のOB連絡会が総会

10月3日、「JRバス東北OB連絡会第4回定期総会」が仙台地本会議室で、16名の参加者によって開催されました。

来賓には本部OB会の奥山副会長と盛岡地本OB会の小田島会長の他に、現役のバス東北とバス関東の代表も参加しました。

総会では「組織破壊攻撃と闘うJR東労組と共に、我ら生涯労働者の力で憲法改悪を阻止しよう」と確認しました。

今年度役員体制

会長	一男 (盛岡)
副会長	長一 (仙台)
竹澤	利治 (福島)
菅野	昭義 (仙台)
小向	初 (青森)
事務長	
長尾	

「我らの声」の休刊と「組合カレンダー」配付の中止について

JR東労組組合員の大量脱退という組織事情により、これまで毎年発行してきた「我らの声」を今春発行した「第19号」をもって、今後休刊とします。長い間のご愛読ありがとうございました。

毎年年末に、中央本部より全OB会員宅に郵送されていた「組合カレンダー」も、今年より配付が中止となりましたのでご理解下さい。